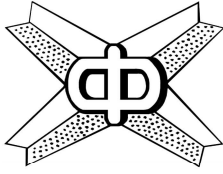


令和4年度 丸内中学校 学校だより NO.10



恕の心



令和4年11月12日 校長 廣瀬 真樹

丸内中学校文化祭 革命！



一人一人の小さなチャレンジが丸内中学校にやがて大きな革命をもたらせる。そんな可能性を感じた2日間でした。休校もあり時間の制限のある中での取組でしたが、まさに丸中生が力を結集して取り組んだ結果が実を結びました。



最後の講評ではこのような話をさせていただきました。

『ただ「楽しかった」「面白かった」「疲れた」という感想や振り返りではなく、その後ろにあるものを感じてほしい。なぜ楽しむことができたのか、面白く感じた裏にはどんな人が動いているのか、来年自分たちはどう文化祭を作っていくのか・・・そんなことをしっかり考えた振り返りを期待しています』

物事の裏にはそれを支える誰かの存在があります。いろいろな人の思いがそこにはあります。そこを実感することができるのとひとつの出来事も見方を変えることができます。まさに「おかげさまで」を実感できるのだと思います。いろいろな人のおかげで頑張れた、楽しめた、そのことを感じる事ができれば、自然と感謝の気持ちがわきます。その心は思いやりの連鎖につながり、怒の心につながっていくのだと思います。そこを分からず、いや分かろうとせず、ただ単に自分が楽しんだだけ、つまらなかったと文句を言うだけの人は、人として薄っぺらいのだと思います。

今回の文化祭で感じた思いや温かい気持ちをぜひ11月からのスタートに生かして行ってほしいと思います。

校長コラム

**「運がいい人も、運が悪い人もいない。
運がいいと思う人と、運が悪いと思う人がいるだけだ。」**
中谷彰宏

人はよく「自分は運がいい」とか「運が悪い」と口に出します。確かに幸運な出来事に遭遇したり、反対に不運な出来事が自分の身に降り掛かってくることはあります。ただし、それはたまたまそういう出来事に遭遇しただけなのです。

「自分には不運な出来事ばかり起きる」と愚痴を言う人がいますが、それは悪い出来事の方が強い印象を持ってしまうからです。それをいつまでも忘れずにクヨクヨしているから、自分は不運な人間だと決めつけてしまうのです。いつも明るくポジティブに生きている人は、決して自分を不運な人間だとは思っていません。たとえその人の身に不運な出来事が起きたとしてもです。

運がいいとか悪いとか、それはあなたの心が決めているのです。運が良いと思っていれば、きっと幸運を引き寄せてくれるはずなのです。